

地域 コミュニティ かわら版

川島二区

鎮守の杜は

「ミ」ティスボット

区長 森田 勉

川島の由来についての文献によると次のような記述がある。

川島は、廣野村の飛地であり、東西五町二十八間、南北五町五十間の広がりをもつ地区であることが「郡村誌」に記してある。権田稔氏所蔵、元禄十二年。又、川島の地名が志賀元廣野とされた時代があった。「明治の大合併」である。旧廣野村の飛地であった川島は地を接する大字志賀に編入され、その地名は消滅した。地名の呼称には歴史的背景があり、それを軽々しく変更、廃止することは、長年その地に暮らしてきた住民の自尊心が許さない。川島の地名の復活と大字設置を願い出る。しかし、この訴えは明治24年「元廣野村飛地川島旧称存立願ノ件詮議ニ及ビ難シ」と退けられるなど先人の苦勞が偲ばれる。しかし、川島

の地名は消えることなく通称として使われ続けた。さらに、鬼鎮神社は、度重なる戦争を通して武神としての信仰が広まり「川島の鬼鎮様」として、県外からの参拝者も集める著名な神社となった。「博物誌」より109「こうして川島と鬼鎮神社は昔年から宿命的な繋がりととなる。『発展の武州松山』大正14年によれば、鬼鎮神社について菅谷村大字川島に在り、当町「松山町」より西方一里余、毎年新春の百花研美の季又仲秋賞月の候、四時近郷は言はずもがな、遠く数十里の所より特に参拝するもの絶ゆる事なし。と記されている。川島区の行事は多く寒中の節分祭、春の祭典、猛暑の神輿、酷暑の納涼祭、秋の祭典、春秋の3区対抗G・ゴルフ大会、環境美化、花いっぱい運動等々鎮守の杜に区民は集う。節分祭の様子は今ではウェブサイトにいつでも見られる、世相を反映して神社には二冠馬、サニー・ブライアン（第57回皐月賞優勝、



第64回日本ダービー優勝)の馬主が奉納した輪島漆塗りのプレートが神殿に掲げられている、納涼祭の櫓は本格的なもので、川島会が組み立てる、祭りは役員、川島会、婦人会、子供会、神社氏子等々区民の祭りに対するDNAは今も健在である。祭りで繋がる区民の絆、新旧住民が鎮守の杜で遊び、学び、語り昔ながらの文化を伝承している地域です。

むさし台区

区長 大澤 豊

むさし台区は駅東口土地区画整理により、志賀三区から、平成九年十一月一日にむさし台区となりました。駅を控えて朝夕は通勤、通学者も多い、商業施設、町の図書館もあり、県道が東に深谷・嵐山線、西に菅谷・寄居線が通り、交通量も多い地区であります。世帯は810世帯を増減している現状です。転入世帯の方が多い地域でもあります。人と人との繋がりを大切に、住みよい豊かな地域にしてゆくため、皆さんと協力しあって進めています。

むさし台区で行っている主な行事を紹介いたします。

①地域の交流事業として進めている事

八月はふれあい会が中心となり、隣組長さん、老人会（むさし台寿

会）婦人会、子供会の方も一緒になって「区民祭」が盛大に行われます。今年は十三回を終えて、各丁目ごとに取り組んでいる模擬店も皆様に喜ばれ、会場は世代をこえての交流の場となりました。またこの機会に、防災釜を使い、炊き出しの体験もしています。十一月の中旬はふれあい秋祭り（芋煮会）をおこない、子供さんからお年寄りの皆様も参加し、交流深まる憩いの場となります。

②安全安心のまちづくりにむけて子供たちの交通安全や地域の防犯活動として、学校との連携を進めながら「児童下校時見守り活動」を行っています。第二公園、図書館前、駅東口を見守り拠点として活動しています。これからもご協力いただける方に声をかけをして増員を図り、地域の皆様で守っていきたいと思います。夜間防犯パトロールもメンバーにより毎月各丁目に分かれて防犯、防火の声かけ活動を行い、区内の安全活動を進めながら、情報交換もおこなっています。

